

1 本年度の重点教育目標

「自ら学び 自ら考え 自ら進む子」

2 本年度の取組の重点

「みんなが 笑顔で暮らせる学校」をつくるための「Action 5」
 (1) Action 1 「分かる」 自分を知り、相手を知り、まわりを知る。
 (2) Action 2 「行動する」 自分のために、相手のために、まわりのために動く。
 (3) Action 3 「守る」 自分を守り、相手を守り、まわりを守る。
 (4) Action 4 「前へ進む」 うまくいかないことを理解し、新しい行動を起こす。
 (5) Action 5 「かなえる」 夢や願いをかなえる方法を見付け、やってみる。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
①	バランスのとれた「生きる力」の育成 全ての子ども学びを保障する、教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、知徳体のバランスのとれた「生きる力」を育成する。 ○学力の充実(確かな学力) ○心力の充実(豊かな心) ○体力の充実(健やかな体)	b	□「主体的、対話的で深い学びの実現」に向け、校内研修を核として、子供主体の探究型学習の更なる推進を進める必要がある。 □表現する力を高めるため、職員で目標の共有を図り、教育活動の工夫改善を図る。	B	B	・コロナ、ゲーム、SNS等の影響で人との関わり方が難しい様子が見られます。心力の充実のため、思いやりの心を育てる経験を増やすべきかと思えます。 ・学力だけではなく生きる力や知恵を身に付けるための活動の展開が必要かと思えます。
②	教職員の資質能力の向上 教職員としての誇りと責任及び自覚を持ち、子どもたちの成長のために研修活動等を通して、資質能力の向上に努める。 ○豊かな人間性・専門性・社会性を身に付けた「教師」としての不断の努力の継続 ○共に高め合う研修活動の確立と実践 ○質の高い研修活動と業務推進の工夫改善	b	□職員が主体的に外部研修に参加するよう意識の向上を図り、環境を整える必要がある。	A	A	
③	保護者や地域住民に信頼される教育活動の展開 学年間や分掌間の連携を密にし、「組織」としての活性化を図るとともに、異校種間の交流を充実し、保護者や地域住民に信頼される教育活動を展開する。 ○「学校運営協議会」事業の立案と円滑な推進 ○近隣の幼稚園等、小学校、中学校との交流の実施 ○保護者、地域住民及び関係機関との連携を通じた「小中連携」の工夫改善	b	□6年生児童が中学校への希望や目的意識を早くからもてるよう2学期に乗り入れ授業を行ってもらよう依頼する。	A	A	・学校と地域の協働においてプラザが「未来を担う子どもたちに必要な経験や学び」を事業目標としているところが、学校の教育目標と重なる部分があり、互いに負担感なく理解し合っているものと考えます。今後も互いに信頼される教育活動を目指していきましょう。
④	「目指す学校の姿」の具現化 「目指す学校の姿」の具現化を図る「Action 5」を踏まえた学級経営及び分掌経営の工夫改善を通して、開かれた学校づくりに向けた責務を果たす。 ○「Action 5」を意識した学級経営及び分掌経営の計画立案と積極的な推進 ○教育活動における保護者等への「説明責任」及び「結果責任」の徹底 ○学校改善に生かす学校評価の工夫改善	b	□「目指す学校の姿」である「みんなが 笑顔で暮らせる学校」は様々な場面で浸透してきた。「Action 5」は理解度が低いため、学級経営案のみならず様々な教育活動で活用していく必要がある。	A	A	・Action 5(分かる、行動する、守る、前へ進む、かなえる)よりも目指す学校の姿「みんなが笑顔で暮らせる学校」が記憶に残りやすく具体的に子どもたちが目指しやすい目標となると思えます。頑張ったその先にある達成感による笑顔や素直な心で喜びや幸福感を感じるそんな瞬間の笑顔を応援したいと思います。
⑤	保護者及び地域住民との連携を密にした、安全な教育環境 危機管理体制の強化といじめのない学校づくりを目指し、保護者や地域住民と連携した「安全で楽しい教育環境づくり」に努める。 ○保護者や地域住民との情報の共有化 ○子どもの健康と安全、危機管理等における家庭と地域との協働した取組の推進 ○いじめや不登校の根絶を図るための支援体制の充実	b	□校内体制の充実及びスクールカウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーや、函館市子ども未来部等、関係機関との一層の連携・強化を図る。	A	A	・校区内の施設として学校との地域連携事業等による関わりをより一層深めたいと考えます。子どもたちにとって児童コーナーが家と学校以外に安心して過ごせる居場所であることを周知施設を利用する児童の現状を学校と共通理解し心身の安定や成長を支えるためにさらにできることはないか共に考えたいと思えます。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。